

平成31年度 京都府立北嵯峨高等学校 学校経営計画(スクールマネジメントプラン) (実施段階)

学校経営方針	昨年度の成果と課題	本年度学校経営の重点
<p>「独創質実（何事も自ら考え、主体的に判断し、真摯な態度と素直なところで行動する。）」の校是の下、高校生活の限られた時間の中、集中力と工夫により学習と部活動の両立を実践し、「人を育て、心を育む」教育を目指す。</p> <p>具体的には、</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 規律ある生活により、学力・体力・情操の向上を図る。 2 科学的認識を養い、創造性と実践力を育てる。 3 保護者・地域との連携を深め、生徒の進路についての願いを実現することに努める。 4 地域の歴史と文化遺産に対する理解を深め、その文化を守り育てる力を養う。 	<p>【成果】</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 保護者・学校評議員への授業公開や、全ての生徒・保護者アンケートの実施等により、開かれた学校づくりを進めた。 (2) 生徒指導部と学年部等の連携により、落ち着いた学習環境を提供できた。 (3) 教育相談会議を定期的に開催し、要配慮生徒の現状と今後の指導の在り方について合理的配慮と併せて検討した。 (4) 地域連携及びホームページの更新を積極的に行い、広報活動を充実させた。 <p>【課題】</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) ICTの効果的活用 (2) 生徒の基礎学力定着と自学自習の育成 (3) 教科指導力の向上と授業の工夫改善 (4) 交通安全意識の向上 (5) いじめの根絶に向けた取組と指導体制 (6) 地域の自然、歴史、伝統文化等の教育資源を活用 	<ol style="list-style-type: none"> (1) 本年を「強い北嵯峨」の第2ステージと位置づけ、部活動で培った自信や集中力を学習面に生かしながら、すべての部活動が昨年度以上の実績を残す。 (2) 教科指導力を高めるために教員がお互いの授業を観察し、「学力の三要素」を常に意識した授業改善に取り組み、質の高い授業ができるようにする。 (3) Classiの適切な運用により家庭学習の一層の定着を図りながら「高大接続改革」に後れを取ることなく、振り返りや様々なデータを共有しながら生徒の希望進路実現の一助とする。 (4) 本校の魅力を生徒が共通認識し、日々の教育活動を実践するとともに、特に地域の自然や伝統文化などを通して、本校の魅力的な取組をHP等の広報活動を積極的に発信する。 (5) 常に規範意識を持ち、いじめの根絶や人権尊重の涵養に努め、節度と自覚ある行動が取れる人間づくりをめざし、合理的配慮の視点を持った他者を尊重する適切な対人関係の構築に取り組む。

評価領域	重点目標	具体的方策	No	評価		成果と課題
学習指導	◇教科指導力を向上させる。	◆学習効果を高め、基礎基本を徹底し学力を充実させながら、ICTの活用を含めた深い学びにつながる授業となるよう工夫改善に努める。	1	B	B	○ipadの台数増加やClassiの導入によりICT機器を活用した教育実践が増えてきた。 ○合理的配慮を要する生徒に対して教職員間の情報共有をはじめ、個に応じた丁寧な指導により、人間関係の改善や新たな環境作りにつながった。
	◇特別支援教育を充実させる。	◆教職員で情報を共有し、合理的配慮の提供に努め、個々の状況に応じたきめ細やかな指導を行う。	2	A		
生徒指導 特別活動	◇愛校心を育成し基本的な生活習慣を身につけさせる。	◆身だしなみ指導を通じて、本校生徒としての自覚と誇りを養うとともに、基本的な生活習慣の定着を図るために教職員の共通理解と一致した指導体制を構築する。	3	A	A	○日常的に登校指導や身だしなみ指導を重ねた結果、多くの生徒に基本的な生活習慣の定着が見られた。 ○大半の生徒は交通ルールを遵守していたが、一部の生徒にルールやマナーを守る指導が必要であった。 ○ボランティア活動や地域の活動に積極的に参加する生徒を顕彰し、達成感や自己肯定感を持たせ、継続した取組につなげることが重要である。
	◇交通規則の遵守と交通安全に対する意識を高める。	◆関係各団体と協力し、交通規則の順守と、自転車の交通マナー及び交通安全に対する生徒の意識を向上させる。	4	B		
	◇生徒の主体性・社会性を育成する。	◆生徒会や部活動が中心となり、地域への奉仕活動に主体的に参加できるよう、社会性やボランティア精神を育成する。	5	A		
進路指導	◇希望進路の実現に向けて進路指導を行うとともに、キャリア意識の形成を図る。	◆学年部・教科担当者・部活動顧問が個々の生徒の学力状況・学習状況を把握し、3つの方向からの指導により、学力の向上と進路希望の実現を図る。	6	B	B	○学年部と進路指導部の連携は図れたが、生徒個々の学力向上に向けた具体策を提示するまでには至らなかった。 ○民間企業就職希望者は100%合格を達成したが、大学進学希望者の土曜学習やウィークエンドセミナー等への参加が徐々に減少する傾向があり、生徒自身が進路意識を高める指導を強化していく必要がある。
		◆キャリア教育を充実し、生徒個々の進路意識の向上を図るとともに、就職率100%、大学進学率70%を目標に生徒個々の適性と希望に応じた進路指導を推進する。	7	B		
人権教育	◇人権問題を正しく理解させ、いじめの根絶を図る。	◆あらゆる教育活動に人権の視点を入れ、同和問題をはじめとする様々な人権問題の解決や、いじめ等の未然防止のための意識を高め態度を育成する。	8	A	A	○今後もいじめ等の未然防止のために教職員が日頃から高い人権意識を持ち、生徒の動向に留意しながら組織的な対応を実施していくことが求められる。
健康・安全 教育	◇配慮を要する生徒に対して適切な支援を行う。	◆保健部と担任や教科担当と情報の共有を図り生徒の状況を適切に把握し、教育相談会議等を活用して、配慮を要する生徒への支援を適切に行う。	9	A	A	○年間を通じて定期的な教育相談会議は勿論のこと、適宜臨時教育相談会議を開催することによって支援の必要な生徒への適切な指導が実施できた。 ○日頃から生徒個々がゴミの分別収集を理解・実践している。また、運動部員を中心に朝の始業前の時間を活用し清掃活動に取り組んでいる。
	◇教育環境づくりを推進するとともに、環境保護の意識を高める。	◆日々の清掃活動を徹底し学校の環境を整備するだけでなく、環境保護の意識向上に向けて生徒も教職員もゴミの分別を徹底する。	10	A		
図書館指導	◇図書館を活用した指導を充実させ、時代の要求に対応した図書館を目指す。	◆教科との連携を通じて生徒の読解力向上を目指すとともに、視聴覚機器を活用した授業を展開する。	11	A	A	○ビブリオバトルの実施は、読書への興味を高められる取組として好評であった。
安全管理 情報・文書	◇学校の危機管理体制を強化する。	◆全教職員が学校の危機管理対応について理解を深め、生徒の安心安全に適切な対応ができるようにする。	12	B	B	○教職員が常に危機管理意識を持ち、個人対応ではなく、組織的に対応していくことが重要である。 ○今年度避難訓練を5月の早期に実施したことは、危機管理の面から良かった。
	◇学校の情報管理体制の徹底を図る。	◆生徒の多様な個人情報適切に管理し、学校の情報管理体制の充実と教職員のセキュリティ意識の向上を図る。	13	B		
家庭・地域 社会との 連携	◇広報活動を一層充実し、速やかな情報提供を図る。	◆各中学校との連携を深め、HPの積極的な更新等広報活動を一層充実させ、信頼される「行きたい」学校づくりを進める。	14	B	B	○ホームページの更新は昨年度より多かったが、ツイッターはほとんど使われていなかった。 ○学校評議員会等を定期的に開催し、建設的な提言を受け信頼される学校づくりに反映できた。
	◇地域に信頼される学校づくりを進める。	◆学校評議員、学校関係者評価委員、PTAとの連携を深め地域に信頼される学校づくりに努める。	15	A		
学校関係者 評価委員会 による評価	○運動部・文化部問わず部活動における生徒の活躍は、北嵯峨高校の重要な教育活動として地域から大きな期待と信頼を集めており、教育活動の柱の一つとして引き続き充実・発展させて欲しい。 ○日頃からの継続した指導により落ち着いた学習環境が保たれ、また基本的な生活習慣を身につけた生徒が多く見られる。今後も生徒一人ひとりを大切に「人を育て、心を育む」教育実践を期待する。 ○進路指導において家庭学習の習慣が定着していない生徒や進路目標（人生設計等）を早期に確立することができていない生徒に対する指導は課題であり、家庭と連携した取組を望む。					
次年度に向け た改善の 方向性	○部活動の成績・結果のみに目を向けるのではなく、生徒自身が主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度を育成するとともに、集団への所属感・連帯感や学校文化醸成に向けた活動を展開する。 ○日常における挨拶の励行、時間管理、自転車の乗車マナー、服装・身だしなみ、社会規範の遵守等の指導を粘り強く継続して行う。また、人権意識の涵養に努め、きめ細かな教育相談活動を実施する。 ○家庭学習の時間を確保するための効率的な時間の使い方を示すとともに、基礎基本を確実に定着させ学習（授業）における自己達成感を充足させる指導を工夫・展開し、生徒の進路実現に繋げる。					